

J.フロントリテイリング

2019年2月期第3四半期決算(3Q)電話会議 質疑応答要旨

日時:2018年12月27日(木)15:15~15:45

【業績全般】

Q. 第3四半期の営業利益の進捗が弱かった要因について、売上、粗利率、経費などの要素別、また事業別の観点からお伺いしたい。

A. 主には百貨店、パルコでの9月の災害影響が大きく、事業利益対前年△16億5千万円の約半分が9月にマイナスした。また、その他セグメントに属するJ.フロント建装、大丸興業が当初計画に比べて進捗がよくない。

【百貨店事業】

Q. 第4四半期は経費抑制、売上促進策を追加することだが、一般的に売上促進のためには経費が伴うなかで、具体的にはどのような施策を講じていくのか。

A. 第3四半期までの進捗をふまえ、12月に入り既に各事業会社において売上、経費両面で対策を講じている。特に中核となる百貨店では第4四半期のウエイトが大きいため、売上強化、経費削減の両面から対策を進めている。災害影響を除いた第3四半期の実勢売上と第4四半期の売上計画値との乖離は約40億円と認識している。追加対策として、インバウンド対応における各店への送客および販促強化を実施している。また富裕層対応強化策として、新規外商催事の開催、カード会社との共同キャンペーン追加等によって計画との乖離を埋めていく。経費面では、来期以降の成長やサービス充実に向けた一時的な投資は継続する一方で、人件費、施設費、宣伝費、運営費などのいわゆる経常的な経費削減策を既に講じている。これらにより計画業績の確保に努めたい。

Q. 第3四半期の経費が前年比で約10億円増加しているが、これは来期以降につながる経費であり、もともと計画に折り込んでいたものという理解でよいか。

A. そのとおりで、前年に対しては増加しているが、計画に対してはマイナスしている。

Q. 第3四半期は暖冬の影響あったと思うが、第4四半期にかけて百貨店事業の総売上高ベースの粗利益率が大きく下がるリスクはないか。

A. 今年の第3四半期は暖冬でコートの動きが悪いが、第4四半期を含めて百貨店の粗利益率にそれほど大きな影響を及ぼすものではないと認識している。一方でインバウンド需要を含めて化粧品が大きく伸びていることが粗利益率面での支えになると考えている。基本的な傾向は大きくは変わらないと見ている。

【その他の事業】

Q. 建装事業の大型工事の進捗が遅れ、計上が「期ずれ」しているというご説明があったが、今期

中に計上することはできるのか。それはどれくらいの金額の物件なのか。

A. 建設業界全般での人手不足という課題のなかで、工事の遅れによって高益率の大型物件の計上が第3四半期から遅れている。今期中には計上されると理解している。

Q. 中間決算発表時にJ. フロント建装の見通しを当初計画から下げたと記憶している。計画との乖離があまりに大きいとホールディングスとして予算管理に対するガバナンスに課題があるのではないかと感じる。J. フロント建装の業績が計画とずれることは今回が初めてではないので、第2四半期決算時に下げた見通しをさらに下回るといったことはないようにしてもらいたい。

【持分法損益】

Q. 当期利益を見る上で確認したいのだが、持分法投資損益について、第3四半期だけを見ると前年実績を下回っていると思うが、これは想定通りなのか。年度の見通しに対してはブレしていないのか。

A. 昨年度の第3四半期累計では、千趣会の持分法投資損失が△1.3億円ほどあったが、今期はそれがなくなった。一方でスタイリングライフホールディングスの持分法投資利益が、前期との比較で△2億円程度マイナスしている。年度で見れば持分法投資損益はほぼ計画に沿って推移していると見ている。

Q. 前年第4四半期は千趣会の持分法投資損失を計上していたので、年度の持分法投資損益は当期利益に対して改善要因になるという見方でいいか。

A. 2018年度で見ると、前年度との比較では大きく改善の見込み。

【キャッシュフロー（CF）】

Q. CFの状況についてお伺いしたい。第3四半期の段階では営業CFと投資CFがほぼ拮抗している状態。大規模開発投資があるのでやむを得ないかとも思うが、年度末での営業CFと投資CFのバランスについてどのように考えているか。また翌年はどのように考えればよいか。

A. ご指摘のとおり、第3四半期時点では営業CFから投資CFを差し引くと1億程度のマイナスになっている。中期5ヵ年計画の2000億円の投資計画においては19年度がピークとなる見込み。そのような中、FCFでは昨年は大きくプラスになったが、今期、来期は昨年度ほど大きくは出ない予定。

【重視する経営指標】

Q. 今期から来期にかけては資産が増加するということだが、今後御社の重視するKPIのひとつであるROAが改善するのは早くとも再来年以降になる計画か。

A. 19年度は大丸心斎橋店、渋谷パルコの大型投資を予定しているが、営業利益やCFにおいてこれらのプロジェクトの効果がフルに発揮されるのは20年度、21年と見ている。

以上